

地域連携SDGsイベント『倉敷ってSDGsの街!?!』に出展しました

5月20日から25日までの6日間、アリオ倉敷にて開催された地域連携SDGsイベント『倉敷ってSDGsの街!?!』に当社も出展しました。

このイベントは、地域の皆さまに倉敷の歴史に触れていただきながら、倉敷という街への理解と愛着を深めてもらうことを目指しています。アリオ倉敷の1階広場で開催され、倉敷ゆかりの3社である「クラブウ」と「公益財団法人大原芸術財団（以下、大原美術館）」、「株式会社セブン&アイ・クリエイティブリンク（アリオ倉敷）」の協力のもと実施されました。

イベントでは、倉敷の歴史をひもときながら、実はこの地域が昔からSDGsの精神につながる取り組みをしてきたこと、さらに、現在各社が進めているSDGsの取り組みについても紹介しました。

アリオ倉敷はSDGsの17のゴールそれぞれをイメージした「ゆるキャラ」のパネルを設置。子どもたちにもわかりやすい表

現で環境問題についての興味を引く展示を行いました。大原美術館は大原孫三郎と児島虎次郎のつながりをアニメーション動画で紹介し、館内の歴史を伝える貴重な写真もパネル展示しました。

クラブウは、繊維事業部から繊維のアップサイクルシステム「L∞PLUS（ループラス）」を紹介。



▲クラブウL∞PLUSの展示ブース

L∞PLUSが生まれたきっかけや製造工程、取り組み実績などをパネルでわかりやすく解説しました。また、実際の製品や裁断くずから糸になるまでの過程の素材を手にとって体験できる展示も行い、子どもたちにもアップサイクルの仕組みを楽しく学んでいただけました。

最終日には大原美術館主催の「名画のぬりえ絵葉書ワークショップ」も開催されました。参加されたお客さまには、「8 PLUS素材のタオルハンカチを



▲L∞PLUSの工程をわかりやすく展示しました

プレゼンとし、塗り絵を通じて地域への愛着と当社の取り組みに親しんでいただける機会となりました。

今回のイベントを通して「体験」と「愛着」をともに届けることが、子どもたちや来場者の記憶に残り、環境や地域への意識変化につながることを実感しました。

今後も繊維事業部では、当社の商品や活動をより多くの方々に知っていただけるよう、さまざまな取り組みに挑戦してまいります。

（繊維企画課 萩本 千夏 記）



▲名画のぬりえ絵葉書ワークショップの様子